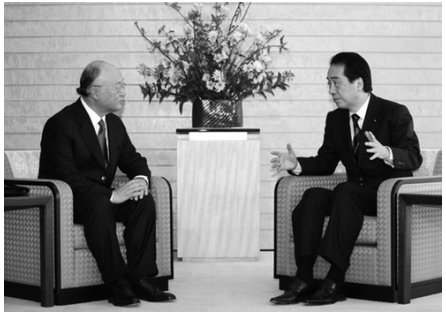


「世界と情報共有を」

IAEA 天野事務局長来日

今回の東北関東大震災に伴う原子力発電所の事故に際して来日した、国際原子力機関(IAEA)の天野之弥・事務局長は十八日午後、東京の日本記者クラブで記者会見した。以下はその概要。

◇ ◇
 今回一泊二日の予定で来日した。四人からなる放射線計測チームも同行した。また一名を東京事務所に常駐させ、情報収集と連絡にあたらせる。



IAEAは「核の番人」と呼ばれることもあるが、核不拡散やセキユリティのみならず原子力安全の活動も行っている。しかし、安全は保障措置のように強制力を持っていない。原子力の安全性確保は基本的に各国の責任であり、IAEAの役割はあくまでも助言、協力であり、今回

来日したのも国際救援隊ではない。

チームは団長(原子力安全の専門家)と調整官(日本人で各方面との調整を図る)と二名の放射線計測の専門官からなっている。現在、今後の活動について打ち合わせしているところだが、その後直ちに東京において計測を開始したい。今後の予定は未定だが、福島方面にはぜひ行ってみたい。

国際機関が独自に放射線計測することによって、日本国民の安心に役立てば幸いである。日本政府からは、放射線の健康影響など、他の分野でも協力して欲しいとの希望が示されたので、まずは事実関係を調べ、何が弱いかを把握した上で、効果的な協力をしたいと考えている。

来週月曜日(二十一日)十一時から特別理事会を開催し、この問題を話し合うことになっている。

新潟県知事ら地元首長が要請 「安全対策、万全の対応を」 福島第一事故に対応し、柏崎原発でも

「東北地方太平洋沖地震」の影響で大きな損傷を被った東京電力・福島第一原子力発電所に関連して、泉田・新潟県知事、会田・柏崎市長、品田・刈羽市長は連名で二十日、清水・東京電力社長に対して、「想定を超える津波などによる水素爆発や放射性物質の漏洩などの原子力災害を踏まえ、住民の不安はかつてなく高まっている」として、

有富、齋藤両教授が内閣官房参与

東京工業大学の有富正憲・原子炉工学研究所長と齋藤正樹・同研究所教授は二十二日付で、内閣官房参与に就任した。

副社長らが現地駐在し対応強化

東京電力は現在、菅直人内閣総理大臣を本部長とする「東北地方太平洋沖地震統合対策本部」を国と合同で設置し、事態の拡大防止と一日も早い設備の安全性の確保に向けて全力を挙げて取り組んでいるが、対応強化のため二十二日より、福島市に齋藤正樹・副社長が、福島県楢葉町にあるサッカー・ナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」に小森明生・常務取締役が、一日も早い設備の安全性の確保に向けて、福島第一、第二原子力発電所を総括する。

新会議員

原産協会の会員として、十六日付で以下法人が入会した。
 日本イーエスアイ(株)

お断り

今回の東北関東大震災産年次大会(松山市)が中止になったことから、同大会開催に合わせて日本を取り巻く原子力事情について参加有識者にインタビューする「グローバル化新時代」のシリーズ企画は、掲載を中止させていただきます。

原子力 ワンポイント



広く利用されている放射線⑪

私たちは呼吸や食事などの日常生活を通じて、年間約二・四ミリシーベルト(mSv)の自然放射線を受けているのです。また、食べ物によりカリウム40という自然放射性物質が体の中にたまっており、ここから放射線が出ています。

私たちが呼吸や食事などの日常生活を通じて、年間約二・四ミリシーベルト(mSv)の自然放射線を受けているのです。また、食べ物によりカリウム40という自然放射性物質が体の中にたまっており、ここから放射線が出ています。

放射線 ゆりちゃん 自然界にある放射線(自然放射線)とはどのようなものですか？

でも同じですか？
 タクさん 大地から受ける放射線は地域によって異なります。日本国内では、花崗岩の多い関西地方が高く、関東地方は低い傾向にあります。大阪では年間平均〇・四六mSvに対して、東京では年間平均〇・三三mSvを往復すると、〇・二mSvと少なくなっています。

たくさん 自然放射線とは、私たちの身の回り、地球ができたときから自然界にもともと存在しています。私たちは、呼吸や食事などの日常生活を通じて、年間約二・四mSv(世界平均)の自然放射線を受けているのです。

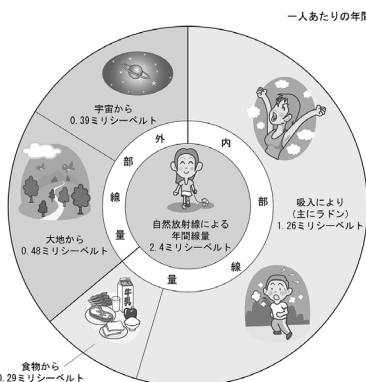
人類は自然放射線と共存して生きてきた

海外をみると、インドのケララでは、大地から受ける放射線は年間平均三・八mSvです。これは土壌中のモナザイトという鉱物がトリウム物質が含まれています。カリウムは自然界に存在する放射線はどこ

原子力発電所被災に関する進展経緯

11日	14:46 地震発生
	15:45 オイルタンクが津波により流出
	16:36 福島第一-1、2号機非常用炉心冷却装置注水不能のため同法15条報告
	総理官邸対策室設置
	19:03 「原子力緊急事態宣言」発令(福島第一)
	21:23 総理が福島第一3キロ圏内の住民に避難指示、10キロ圏内の住民に屋内退避
12日	5:44 総理が福島第一10キロ圏内の住民に避難指示
	7:45 総理が福島第二3キロ圏内の住民に避難指示
	15:36 福島第一-1号機で水素爆発
	17:39 総理が福島第二10キロ圏内の住民に避難指示
	18:25 総理が福島第一20キロ圏内の住民に避難指示
14日	11:01 福島第一-3号機で水素爆発
15日	5:35 政府「福島原子力発電所事故対策統合本部」設置
	6:20 福島第一-2号機で爆発音、圧力抑制室に異常発生
	7:15 福島第二全基が冷温停止
	11:00 総理が福島第一20～30キロ圏内の住民に屋内退避
16日	8:37 福島第一-3号機で白煙大噴出
17日	9:48 福島第一-3号機へ自衛隊ヘリ放水開始(使用済み燃料プール冷却)
	19:05 福島第一-3号機へ警察および自衛隊が陸上より放水開始()
18日	12:25 文科省が放射線全国のモニタリングの強化を決定
	14:42 福島第一-3号機へ東電が米軍高圧放水車により放水(使用済み燃料プール冷却)
	17:50 保安院がINES暫定評価発表、福島第一-1、2、3号機で「レベル5」など
19日	0:30 福島第一-3号機へ東消ハイパーレスキュー隊が放水開始(使用済み燃料プール冷却)
20日	8:20 福島第一-4号機へ自衛隊消防車が放水開始(使用済み燃料プール冷却)
	14:30 福島第一-5号機が冷温停止
	15:46 福島第一-2号機パワーセンター受電
	19:27 福島第一-6号機が冷温停止
21日	6:37 福島第一-4号機へ東電が米軍高圧放水車により放水(使用済み燃料プール冷却)
	11:36 福島第一-5号機が電源を非常用ディーゼル発電機から外部電源に切替
	14:30 福島第一放水口付近の海水サンプリングで、基準値を超過放射性核種が検出
	15:55 福島第一-3号機で灰色がかつた煙が噴出
	17:50 政府が福島県、栃木県、茨城県、群馬県に食品の出荷制限を指示
	18:22 福島第一-2号機屋上屋根部から白いモヤ状の煙が噴出
22日	10:35 福島第一-4号機パワーセンター受電
	11:00 内閣府食品安全委で放射性物質の指標値に関する審議開始
	16:19 福島第一-2号機に東電消防車で注水実施(使用済み燃料プール冷却)
	17:17 福島第一-4号機へ東電コンクリートポンプ車により放水()
	19:17 福島第一-6号機が電源を非常用ディーゼル発電機から外部電源に切替
	22:45 福島第一-3号機中央操作室の照明が点灯
23日	16:20 福島第一-3号機で黒煙確認

自然放射線から受ける線量



体内、食物中の自然放射性物質



電事連「原子力・エネルギー」図面集 2011 より

在するミネラルの一種で、人間の体内で塩分を低下させ血圧の上昇を抑えるなど、健康を保つために必要不可欠な成分です。このカリウムにはカリウム40という放射性物質がごくわずか(〇・〇一%)程度ですが存在している、いろいろな食品に含まれています。そして、私たちの体内に入ると一部は排泄されますが、一部は体内に残ります。こうして、人の体の中にも、いつもほぼ一定のカリウム40という自然放射性物質がたまっていることになりました。(原産協会・政策推進部)